新たな果樹産地の育成と販路の確保

対象者　新規果樹栽培者および栽培希望者

【普及活動のねらい】

平成 28 年度から、当課と関係機関がぶどうとなしの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めています。令和２年度当初には、ぶどうは 16 戸 1ha、なしは９戸 31a で栽培が開始されました。今年度は、ぶどうにおいては目標とする房づくりのための技術習得、「シャインマスカット」の肥大促進技術の習得を目標に活動を行いました。なしにおいては肥培管理の改善による収量の向上、「梨なびシステム」による黒星病適期防除の実践を目標に活動を行いました。また、両品目とも安定販売に向けた販売方針の策定と新規栽培者の拡大に向けて活動を行いました。

【普及活動の内容】

ぶどう：目標とする房づくりに向けて

市場出荷を含め量販店等での販売を進めていくためには、統一した規格での房づくりが求められることから、年度当初の研修会で着粒数と房重などの目標を共有化するとともに実技研修と巡回指導を行いました。

特に、摘粒については研修会で目標粒数の目安となる房模型を用いて指導を行い、着粒数が多い場合は個別巡回指導を行いました。

房模型を用いて摘粒指導

ぶどう：「シャインマスカット」の肥大促進技術習得に向けて

「シャインマスカット」開花期摘心指導

「シャインマスカット」は品種特性で樹齢５年以下の若木では粒肥大が劣る傾向にあります。そこで、開花期摘心と副梢管理の徹底に加えて収穫期まで SPAD 値 50 の葉色が維持できるように２回の追肥施用を指導しました。

なしの摘果指導

なし：肥培管理の改善による収量の向上

樹幹拡大を進めながら収量向上を目指すために、昨年度に比べて施肥量を 1.5 倍に増やし樹勢強化を図りました。樹幹拡大と側枝確保のために、芽かきと誘引を指導しました。また、大玉生産のために品種別の目標着果数を示し、摘果作業に遅れが生じないよう指導しました。

なし：「梨なびシステム」による黒星病適期防除の実践

黒星病防除は降雨と防除薬剤の残効を勘案し、薬剤散布タイミングを見極める必要があります。黒星病発生の原因や防除対策について研修会で知識を深めるとともに、パソコンが活用できる農家には「梨なびシステム」を導入し適期防除に活用しました。

※「梨なびシステム」：平成 28 年に開発された千葉県ナシ病害防除支援情報システムの略称

「梨なびシステム」による防除指導

安定販売にむけた販売方針の策定

複数の販売先（農協直売所、量販店内農協インショップ、市場出荷、各戸庭先販売）の確保を提案し、農協とともに支援を行いました。収穫を前にした研修会では、農協直売所に出荷が集中しないように意識付けを行うこととあわせて、各戸に希望販売先と数量をアンケートにより調査しました。また、今後増加する収穫量に対応するため市場出荷ルート開拓のため市場から担当者を招き産地見学会を実施し次年度以降の出荷に繋げました。

新規栽培者の拡大

栽培志向者 40 名を対象とした研修会を実施し、栽培開始希望者に対する個別相談を重ね、品種選定、植穴準備と植え付け、低コスト棚の設計施工など栽培開始を支援しました。

【普及活動の成果】

ぶどうは、着粒数、着房数ともに目標どおりの管理が実践できました。「シャインマスカット」では一粒重が平均 16.5g となり十分な肥大を得て目標単収 10a あたり 1.5t を達成することができました。

なしは、黒星病による大きな減収も無く、品種ごとの平均果実重もほぼ目標どおりで目標単収 10a あたり２t を達成することができました。

「シャインマスカット」の収穫状況

売り上げについては、ぶどう、なしともに昨年の２倍を上回る結果となり直売所が賑わいました。

安定販売に向けた販売方針は、今後生産量が増加することを見据えて直売所への出荷の集中を避け、複数の販売先を安定的に確保していくことになりました。

新規栽培の開始については、ぶどうで１戸 1.7a、なしで１戸 7.6a の拡大となりました。

引き続き、関係機関と連携し新規栽培者に対する栽培技術の習得指導と新規栽培者の拡大を進めます。

新規栽培者の販売額と産地規模（戸数・面積）

	令和2年度		令和元年度	
	ぶどう	なし	ぶどう	なし
販売額（千円）	2,252	1,621	1,051	709
戸数（戸）	17	10	16	9
面積（a）	103.9	39.0	102.2	31.4